

World Vision

この子を救う。未来を救う。

World Vision

この子を救う。未来を救う。



特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
2020年度 年次報告書

2021年3月発行

発行 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
TEL:03-5334-5350(代表) FAX:03-5334-5359
HP:www.worldvision.jp
郵便振替 00130-6-254059

当団体は認定NPO法人です。皆さまからのご寄付は寄付金控除等の対象となり、税制優遇措置を受けられます。
本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

ワールド・ビジョン・ジャパン 2020年度
年次報告書

World Vision Japan Annual Report 2020
2019年10月 - 2020年9月



その想いは、未来を変える チカラになる。

ごあいさつ

日ごろより、ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)を通じて世界の子どもたちをご支援くださり、誠にありがとうございます。心からの感謝を申し上げますとともに、年次報告書をお届けいたします。

2020年度は、ワールド・ビジョンにとって設立70周年の記念すべき年でした。そのような年に世界を襲ったのが、新型コロナウイルスの脅威でした。約100カ国にもおよぶ各国のワールド・ビジョンが一致協力した結果、従来からのチャイルド・スポンサーシップ等によるご支援に加えて、過去最大規模の緊急支援を実施することができました。これは、「何もかも」はできなくとも、「何か」はきっとできる」という創設者の信念に基づいて、70年の間に培った支援のノウハウと、地域社会に深く根を下ろした活動による信頼関係があったからこそ実現できたものと考えております。新たな年度も、最も弱い立場にある子どもたちに寄り添うという使命感に立って、子どもたちの豊かないのちを守り育てる活動を続けてまいります。今後とも、皆さまの尊いご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事長

小西 孝蔵



「地図から踏み出す」がここ数年の私たちのテーマでした。一步踏み出し新しいことに挑戦する、という趣旨です。しかし2020年度は、「地図から放り出されて」始まりました。

新型コロナウイルスで世界は激変しました。私たちの活動現場は、衛生環境が悪く医療資源の少ない途上国にあります。感染リスクは高く、経済社会への影響も深刻です。コロナ禍によって新たに増える貧困層数は、世界で7億人を超えるとの推計もあります。アフリカでは学校の休校中に性暴力が増え、10代の女性の妊娠が大幅に増加したとの報告もあります。日本も大変な中、これら途上国の実情を訴えることには躊躇がありました。けれども実際には予想をはるかに超えて、支援や応援の声が届きました。「自分も大変だからみんなの苦労もよくわかる」という支援者の皆さまの言葉が心に沁みました。気がつけば、私たちは新しい地図を歩いています。多くの学びと気づきを携えて、勇気を持って一步を踏み出し、引き続き新しい道を拓いてまいります。2021年度もどうぞよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
事務局長

木内 真理子



2020年度 年次報告書 目次

数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン	03	企業・団体との連携	19
2020年度 活動マップ	05	広がる支援の輪(特別プロジェクト)	21
チャイルド・スポンサーシップのしくみ	07	皆さまとともに	22
チャイルド・スポンサーシップによる事業	09	新型コロナウイルス感染症緊急対応	23
募金や他団体との連携による事業	13	2020年度 会計報告	24
国内での事業	17	2020年度 支援事業一覧	27
アドボカシー	18	ワールド・ビジョンについて	29

基本理念

私たちはキリスト教精神に基づいて活動します
 私たちは貧しい人々のために献身します
 私たちはすべての人を価値あるものとします
 私たちは仕えるものです
 私たちはパートナーです
 私たちはすぐに対応します

ビジョン・ステートメント

私たちのビジョンは、
 すべての子どもに豊かないのちを
 私たちの祈りは、
 すべての人の心にこのビジョンを実現する意志を
 Our Vision for every child, life in all its fullness
 Our Prayer for every heart, the will to make it so

ミッション・ステートメント

ワールド・ビジョンはキリスト教精神に基づく
 国際的なパートナーであり、イエス・キリストにならい、
 貧しく抑圧された人々とともに働き、人々の変革と、
 正義を追求し、平和な社会の実現を目指します。
 私たちは、このミッション実現のために、
 総合的かつ全体的な方法で、右の動きを行います。

- 変革をもたらす開発
- 緊急人道支援
- 正義の追求
- 教会とのパートナーシップ
- 情報提供
- スタッフの生活、行動等を通じたミッション・ステートメントの実践

数字で見る

ワールド・ビジョン・ジャパン

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動は、「開発援助(チャイルド・スポンサーシップ等)」、「緊急人道支援」、「アドボカシー(市民社会や政府への働きかけ)」の3本柱です。ここでは、世界で活動するWVJの2020年度の活動概要を、数字でご紹介します。

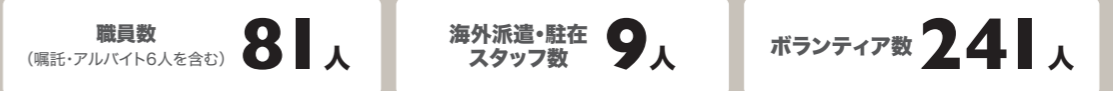


活動国・事業数



※令和元年台風19号緊急支援、国内災害・子ども支援事業含む

活動を数字 とりまく数字



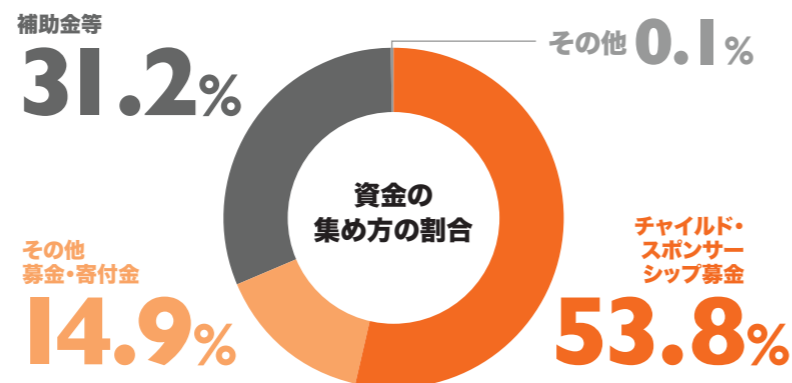
資金の集め方

2020年度の経常収益
詳しい会計報告はP24をご覧ください。

59億39万円

資金の集め方とその割合

WVJに寄せられる資金の約5割は、チャイルド・スポンサーシップによるものです。その他、水と食糧のための募金や難民支援募金、国際機関や政府等からの補助金によって活動しています。



資金の使い方

2020年度の経常費用
詳しい会計報告はP24をご覧ください。

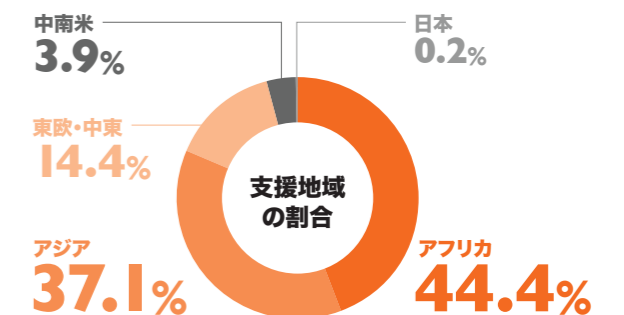
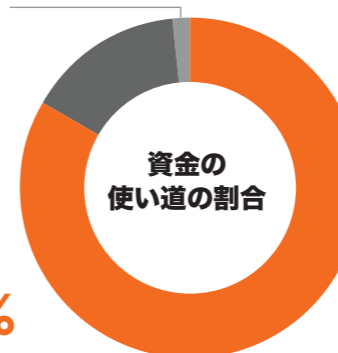
58億1,245万円

資金の使い道とその割合

現地事業活動のため
83.5%

広報活動のため
14.9%

団体の運営・管理のため
1.6%



ワールド・ビジョン・ジャパンは 世界33カ国で154の事業を 実施しました

すべては子どもたちのために。ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は、チャイルド・スポンサーシップ等による開発援助、緊急人道支援、アドボカシーを活動の3本柱として、2020年度は世界33カ国で154の事業を実施しました。



各国に駐在して支援活動に従事しています(2020年度実績)

長期派遣

渡邊 裕子	ヨルダン	2015/3~
加藤 奈保美	ネパール	2017/1~2020/1
松岡 拓也	カンボジア	2017/2~
岡田 航	ウガンダ	2019/3~2020/3
古田 ちあき	イラク	2019/4~2020/3
松崎 紗代	ヨルダン	2019/9~
宮内 繭子	ラオス	2019/11~
大沢 歩	タンザニア	2019/12~
崎川 勝志	ベトナム	2020/2~

アフリカ



開発援助
小学校に通う子どもたちと大沢スタッフ
(タンザニアのムキンガAP)



開発援助
子どもにビタミンA剤を投与する地域の保健員(ケニア)



緊急人道支援
2020年度から支援が始まった地域の子と現地スタッフ
(ウガンダのキバレキット・カレンガAP)



緊急人道支援
ソーシャルディスタンスを保ちながら食糧配布を行う様子(スーダン)



開発援助
支援を通じて清潔なトイレを得た家族
(エスワティニのゲゲAP)

東欧・中東



緊急人道支援
学校修復事業を通じて修繕された手洗い場を使う子どもたち(イラク)



緊急人道支援
ペイルート大爆発の影響を受けた子どもたちに心理的ケアの支援を行う様子(レバノン)

アジア



開発援助
地域のリーダーと支援活動について打ち合わせをする崎川スタッフ(写真右端)
(ベトナム)



開発援助
修繕した小学校の完成式典に出席する松岡スタッフ(カンボジアのボレイ・チュルサールAP)



開発援助
就学前教育を終え修了式に出席する子どもたち(ミャンマー)



開発援助
自分たちで企画・実施する地域づくりのための研修に参加する子どもたち
(スリランカのリディマリヤッダAP)

中南米



開発援助
衛生習慣に関するキャンペーンを実施する子どもたち(エクアドルのコルタAP)

日本国内



緊急人道支援
令和元年台風19号で被災した子どもたちのために開設したキッズスペースにて、子どもと遊ぶ長下部スタッフ(福島県)

WVJが事業を実施している国

アフリカ

ウガンダ エスワティニ(スワジランド)
エチオピア ガーナ
ケニア コンゴ民主共和国
スーダン ソマリア
タンザニア マラウイ
南スーダン ルワンダ

東欧・中東

アフガニスタン
イラク
シリア
ヨルダン
レバノン

アジア

インド インドネシア
スリランカ タイ
バングラデシュ フィリピン
ミャンマー モンゴル
日本

中南米

カンボジア
ネパール
ベトナム
ラオス
エクアドル
エルサルバドル
ホンジュラス



緊急人道支援
ロヒンギャ難民キャンプに暮らす女性のために開設した施設で手芸の職業訓練を受けた女性たち(バングラデシュ)

※AP(Area Program)とは、チャイルド・スポンサーシップによる地域プログラムを意味しています。詳しくはP7-12参照。

開発
援助

地域とともに歩みながら、子どもの健やかな成長を実現していくプログラム

チャイルド・スポンサーシップによる支援は、一人の子どもだけを対象にしたお金や物を提供する支援ではありません。そこに住む子どもたちが健やかに成長できる持続可能な環境を整えていけるよう、支援地域の人々とともに水衛生、保健・栄養改善、教育、生計向上、子どもの保護等の地域の課題に取り組みます。活動の成果を地域の人々自身が将来にわたって維持し、さらに発展できるように、人材や住民組織の育成にも力を入れています。

保健・栄養 健康と成長を守ります

地域で保健サービスを提供できる人材を育成し、子どもの病気予防や栄養状態の改善、妊産婦のケア等の啓発・トレーニングを行います。また、保健施設や備品の整備等も行います。



「1年以上、栄養クラブに通い、病気の予防方法や栄養価の高い食事の作り方を身につけました」
(ベトナムのトアンザオAP)

生計向上 家族の収入を増やします

子どもたちの家族がより安定して収入を得られるように、畜産・農業支援、職業訓練、貯蓄・融資組合の活動支援等、地域の特性をいかした活動を行います。



農業研修を受け、安定収入を得られるようになった親子
(コンゴ民主共和国のカンボAP)



※AP=Area Program (チャイルド・スポンサーシップによる地域プログラム)

教育 学ぶ環境を整えます

地域のリーダーや保護者を対象とした啓発活動を実施。教育の重要性を伝え、子どもたちが教育を受けられるよう働きかけます。また、教育施設・備品の整備や、教師へのトレーニングを行います。



「学校に新しい机が入り、勉強しやすくなりました」
(モンゴルのバヤン・ウルギーAP)

水衛生 安全な水が飲めるようになります

安全な水の確保は、子どもたちの病気を防ぐために欠かせません。井戸や貯水タンクを設置するほか、トイレの整備を行います。



「水道ができたおかげで、水汲みに時間を使うことも、汚れた水で皮膚がかゆくなることもなくなりました」
(カンボジアのトモ・フオAP)

子どもの保護 子どもの健やかな成長を支えます

子どもを虐待や労働・搾取等の暴力から保護し、すべての子どもの権利が守られ個性が尊重されるよう、地域のリーダーや保護者、子どもたちを対象にした啓発・トレーニング等を行います。



いじめのない学校の実現のための啓発活動に参加する子どもたちと保護者
(エルサルバドルのサンアグスティンAP)

チャイルド・スポンサーシップのプロセス

チャイルド・スポンサーシップの支援期間は、約15年。地域の人々が、支援終了後も子どもたちを健康に育て、学校に通わせ、自分たちで問題を解決できるようになることを目指しています。

準備

地域の人々や行政関係者との関係構築、支援ニーズの調査、事業計画策定を行います。

開始 ▶▶▶▶

それぞれの支援地域のニーズに合わせて子どもの保護等の活動を行います。事がら進めます。

実施中の地域プログラム(AP)

キルヤンガ、ロバランギット・カレンガ(ウガンダ)、ゴンドール・ズリア、テラ(エチオピア)、イララタク、キアムボゴ(ケニア)、カンボポ、トヨタ(コンゴ民主共和国)、ゲガ、シェウラ(エスワティニ(スワジランド))、ゴロワ、ムキンガ、ムゲラ(タンザニア)、クエ(マラウイ)、キラムルジ、グウィザ(ルワンダ)

活動が進みます

水衛生、保健・栄養、教育、生計向上、業計画に基づき、評価や見直しをしながら進めます。

アジア

カンドックール、キラユ、サイダベット、デオガル、ブドゥコッタ(インド)、トウナ(インドネシア)、トモ・フオ、ボレイ・チュルサール(カンボジア)、リディマリヤッタ(スリランカ)、タブラヤ、トゥンワ(タイ)、西ドティ、バジャン(ネパール)、イスラムフル、ビルゴンジ、ピロル、フルバリア(バングラデシュ)、サマル、レイテ(フィリピン)、タバック、チャンエン、トアンザオ、ムオンチャ(ベトナム)、タルウン(ミャンマー)、ハイラアスト、バヤン・ウルギー(モンゴル)

中南米

コルタ、ブンガラ(エクアドル)、サンアグスティン、チエラ・ヌエバ(エルサルバドル)

卒業準備

これまでに育成した人材・住民組織が、いよいよ自分たちで活動を継続できるよう準備します。

卒業

すべての子どもたちが「豊かないのち」を生きられるよう、地域の人々によって活動が継続されます。

2020年度に卒業した地域プログラム(AP)

アジア

ボニャー・ルウ(カンボジア)

開発
援助

チャイルド・スポンサーシップ

該当の地域 サマール(フィリピン) 支援期間 2009年～2025年

—フィリピンからの報告—

サマール地域プログラム



支援の背景

貧困や栄養不良等が子どもたちの未来をむしばんでいました

フィリピン中部に位置し、国内で3番目に大きい島であるサマール島のサマール州サンタリタ市で実施されているのが、サマール地域プログラム(サマールAP)です。支援開始時の地域の平均収入は州平均の3分の1以下と、貧困は最も深刻な課題のひとつでした。さらに、トイレや安全な水へのアクセスも限られており、子どもの栄養不良や高い乳幼児死亡率、低い就学率などの課題も抱えていました。また、この地域は毎年のように台風被害が生じ、2019年12月も台風29号の上陸により、住居、学校、公共インフラなどに甚大な被害がもたらされ、人々の生活に大きな影響を与えました。



台風によって損壊した学校

今年度の主な成果

誰ひとり取り残さないための教育支援の実施

教育

就学支援や補習サポート、教師たちへの研修など、子どもたちの低い就学率の改善に取り組むと同時に、義務教育課程から退学してしまった子どもたちへの復学支援を実施しました。この結果、地域の18歳以下の子どもたちの84%が基礎教育の学習プログラムに参加することができました。教育の重要性や子どもたちに与える影響の大きさなど、保護者に理解が広まった成果です。生計向上の支援によって収入が増え、経済的余裕が生まれたことも就学率アップの要因となっています。



▲読み書きのワークショップを開催し、基礎教育への就学支援を行いました
◀新型コロナウイルスの影響により自宅学習となった子どもたちのために学習キットを配布しました

新型コロナウイルスへの対応・対策

ワールド・ビジョンはこれまでの活動を通して築いた地元の行政や学校、地域のリーダーたちとの協力関係をいかし、衛生キットの配布や子どもたちの自宅学習のサポート、予防や感染拡大防止のための啓発活動の実施など、迅速に対応。日々の生活や将来への不安を抱える子どもたちへの心理的なサポートも行っています。

生計向上

「生計支援プログラムで学んだ野菜栽培により、新型コロナウイルスの影響で収入がなくなった中でも、家族のために食料を確保することができました」
ジェシカさん



子どもの保護

「子どもの権利を学ぶ活動に参加し、不安を感じたときにコミュニティの中で誰に相談し、どこに助けを求めるかを知ることができ、自分自身を守る方法を学ぶことができました」
ノーグレンちゃん(10歳)



該当の地域 ゴンダール・ズリア(エチオピア) 支援期間 2006年～2023年

—エチオピアからの報告—

ゴンダール・ズリア地域プログラム



支援の背景

貧困、食糧不足、水衛生環境、児童虐待が問題でした

首都アディスアベバから約500km北西に行ったアムハラ州にあるのが、ゴンダール・ズリア地域です。住民の多くは農業や牧畜に従事しているものの、灌がいが普及していないため収穫は少なく、食糧不足は深刻な問題のひとつでした。また、安全な水源が少なくトイレの普及も遅れていたため、衛生環境が不十分で感染症が頻発していました。さらに、児童虐待や早婚の問題もありました。そのため食糧確保、水衛生、教育等の分野で状況を改善するべく、2006年に支援が開始されました。



水汲みや牧畜、きょうだいの世話等、子どもたちが多くの仕事を担っていました

今年度の主な成果

子どもたちが地域変革の担い手に成長

子どもの保護

教師、保健ボランティア、宗教指導者等からなるコミュニティをサポートするグループに対して、子どもの発達、健康、教育や子育てに関する研修を行い、120人が受講しました。この結果、47人の最も弱い立場の子どもたちに感染症の治療薬を届けたほか、コミュニティ基金の活動により、貧困に苦しむ10世帯のために住居を建設しました。また、子どもたちは、地域の変革の担い手として活躍しています。学校のクラブ活動の一環として、子どもの人権について学び、「アフリカ子どもの日」のイベントも企画。80人が学校で早婚の問題について話し合いました。その結果、今年度は17件もの早婚を未然に防ぐことができました。



▲建設した取水場を使う子どもたち。小学校では手洗いの習慣について学んでいます
◀新型コロナウイルス対策として届けた水タンク

新型コロナウイルスへの対応・対策

感染予防策として、手洗い習慣の啓発やメッセージ発信を行いました。さらには、保健施設への防護具の提供、貧困家庭への物資支援、水衛生施設の建設・整備、子どものための心理的応急処置(PFA)研修を実施しました。

子どもの保護

「住居の提供を受けて私の人生は一変しました。強い風や日差し、雨の中の路上生活は本当に辛かったです。今では家の中で安心して過ごすことができます」
アレムネシさんとその息子(4歳)



生計向上

「ぼくの家族は経済的に厳しい状況でしたが、両親が野菜の育て方の研修を受け、今では玉ねぎを売って生計を立てています。ぼくの教育費も出してもらえて、とても幸せです」
ハブタム君(12歳)



地域プログラムの1つが卒業(支援終了)を迎えました!

支援卒業報告

ポニャー・ルウ地域プログラム(カンボジア)

支援期間 2006年~2020年

支援の背景

栄養不良、不衛生な生活環境等、山積する課題

カンボジアの首都プノンペンから北西の位置にあるポニャー・ルウ。この地域の多くの家庭は貧しく、健康や衛生に関する知識が乏しかったため、子どもたちは常に栄養不良に陥っていました。また、ため池の不衛生な水しか飲めない環境、自宅にトイレのない世帯の野外排泄も大きな問題になっていたのです。さらに、地域の子どものほとんどが小学校に入学するものの、貧困から中途退学する児童は少なくありませんでした。



飲み水として利用していたため池

生活のために働いていた女の子

実施した支援の概要と成果

15年かけて子どもたちが安心して成長できる環境に

保健・栄養

保健センターの建設や道路の整備、住民への啓発活動によって、定期健診や予防接種等、地域住民に広く保健サービスが行き届くようになりました。2020年には、2歳未満児のうち91%が三種混合とはしかの予防接種を受けています。また、栄養不良児を抱える家庭への訪問や栄養価の高い食事の作り方に関する研修から、子どもたちの栄養状況も改善しました。



栄養価の高い食事をとれるようになりました

教育

教員を対象とした教材開発、教授法、学校運営委員会の運営などに関する研修はもろろん、親や保護者に教育の大切さを理解してもらう活動も繰り返し行いました。2020年の調査では、ポニャー・ルウ郡全体の就学率が87%に対し、支援を行ってきた小学校10校の就学率は94%と同郡内でも教育水準が高くなり、地域の子どもの学習環境は改善されています。



設備が整った学校で学べるようになりました

水衛生

水衛生設備の整備や、衛生についての意識と行動のあり方に関する研修を実施しました。煮沸や浄水器等の処理方法を学んだことで、貧困家庭もきれいで安全な水を飲むようになりました。また、トイレの整備が進み、支援対象地域にある34の村のうち、31の村が野外排泄ゼロの村として、地方行政から正式に認定されました。



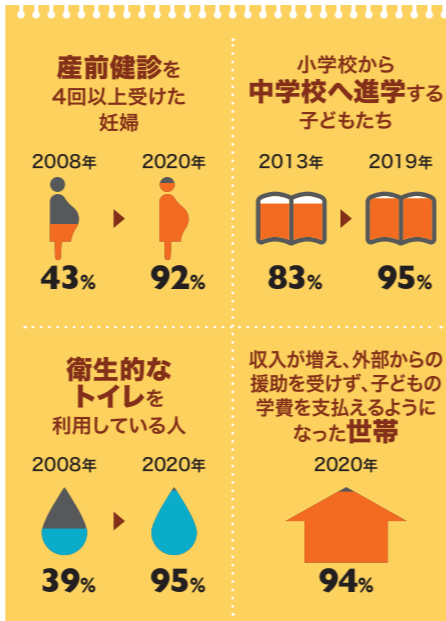
石けんで手を洗う習慣が身につきました

生計向上

これまでの支援で農業技術に関する研修、職業訓練、養鶏の支援を実施。また収入向上のための貯蓄グループによって、地域住民は小規模ビジネスや村の幼稚園を始められるようになりました。世帯収入が改善されたことで、子どもたちの教育費や医療費を賄えるようになり、教育や保健・衛生状態の改善にもつながりました。



農業技術研修により質の高い野菜を作れるようになりました



支援を受けた住民の声

チア・サロムさん
(女性・児童委員と農業協同組合長)



地域住民を代表し、皆さまのご支援に感謝いたします。水衛生施設が整い、地域や学校で安全な水が使えるようになりました。また、トイレが整備され、多くの人々の健康が守られるようになりました。さらに、親は子どもの権利を理解し、大切にできるようになりました。今後、より良い生活を送れるように地域住民同士、助け合っていきたいと思っております。

チャイルド・スポンサーとチャイルドとのつながり

—新型コロナウイルスの影響と新たな関係づくり—

チャイルド・スポンサーシップは、約5万人のチャイルド・スポンサーの皆さまの支援に支えられています。チャイルド・スポンサーになると紹介されるチャイルドとは、成長報告書に代表される定期的な報告に加えて、手紙や訪問等を通じて1対1のつながりを深めていただけます。今年度は新型コロナウイルスによって、支援地域への訪問中止や国際郵便が停止になるなど、大きな影響がありました。その一方、デジタルを活用した取り組みが進み、新たなつながりも生まれています。

手紙によるチャイルドとの交流

コロナ禍で大きな影響を受けました

チャイルド・スポンサーになると、支援地域に住むチャイルドから成長報告書やグリーティングカードが届くほか、チャイルドと手紙を通じて交流していただけます。2020年度は、2019年10月~2020年2月に約12,800通の手紙がチャイルド・スポンサーの皆さまに届けられました。3月以降は、新型コロナウイルスによる国際郵便事情や現地の状況等による制約、またワールド・ビジョン・ジャパン事務所の体制縮小により、30年以上の活動の中で初めて手紙交流が停止となりました。



受け入れ停止により返送された国際郵便の一部。事態収束後に再送されます

動画等による報告

新しい取り組みにチャレンジしました

チャイルドや支援地域の様子をご覧いただける動画を、メールでお送りしています。2020年度は、19,117人のチャイルド・スポンサーの皆さまに、チャイルドの成長を実感していただけるメッセージ動画をお届けしました。また今年度は、新型コロナウイルスの影響を受ける支援地域の子どもの人々に向けて、支援者の皆さまから応援の寄せ書きを募集。デジタルデータで現地に届けるとともに、そのお返しとして送られた感謝の写真や動画メッセージを、支援者の皆さまにお届けしました。



支援者の皆さまが子どもたちに作成してくださった寄せ書きを持つ子どもたち(ケニア)



チャイルド・スポンサーへの手紙を用意した女の子(ベトナム)



今年度は開催できなかったツアーによる支援地域訪問(2019年度の様子)



メッセージ動画では、チャイルドが現地の言葉で話しています

募金や他団体との連携による事業

チャイルド・スポンサーシップによる活動に加えて、皆さまから紛争・災害の中にある人々や子どもたちへ迅速に支援を届け

の募金や日本政府からの補助金、他団体との連携による事業を実施しています。

開発 緊急 子どもの保護・参画

事業実施国 エチオピア、南スーダン、イラク、ネパール、バングラデシュ

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力 / 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF) / 国連児童基金(UNICEF) / 国連人道問題調整事務所(UNOCHA)

皆さまからの募金額

■児童保護募金	3,657,244円
■危機にある子どもたちのための募金	48,072,016円
■誕生日記念募金	24,571,924円
■コミュニティ・サポーター	68,600,000円
■ミャンマー難民危機緊急支援募金	251,000円

(P14の「水・食糧支援」分、P16の「難民・国内避難民支援」分含む)

支援事業報告

北ダッカ市ミルプールの貧困層居住地区におけるコミュニティのごみ・衛生管理能力強化事業(バングラデシュ)



支援の背景

子どもたちの健康を脅かすごみや汚物が散乱

人口増加が著しいバングラデシュの首都ダッカ。北ダッカ市のミルプールの貧困層居住地区では、ごみと衛生の問題が顕著で、人々は劣悪な生活環境で暮らしています。ごみ処理システムは確立されておらず、衛生的なトイレへのアクセスは乏しく、住居の目の前を通る排水溝には蓋がなくごみや汚物が溢れ、特に子どもの健康を脅かしています。



活動対象地域の様子



新しくなったトイレ
トイレ使用後の手洗いの方法や靴を履いて利用することも教えています



地域の衛生問題に取り組む子ども衛生グループの会合の様子

子どもたちが健康に暮らせるよう衛生的な環境を整備

活動の成果

子ども衛生グループが地域の問題解決に向けた取り組みを開始しました

北ダッカ市のミルプールで、貧困層居住地区住民を対象に、生活環境の改善に向け、ごみと衛生の問題に取り組む事業を2019年11月から開始しました。地区住民で「ごみ・衛生管理委員会」を組織し、現状分析を始め、また、地区内のごみ・衛生問題に子どもたちが主体的に関わることができるよう、地区の子どもたちから成る「子ども衛生グループ」を48グループ組織しました。新型コロナウイルス感染症拡大予防のため活動は一時中断しましたが、住民には電話で連絡をすることで、衛生行動について意識啓発を続けました。外出規制緩和後は感染予防策を取り、適切な排水溝(蓋つき、320メートル)と衛生的なトイレ(20基)、女性に配慮した水浴び場(4基)が整備されました。

支援地域からの声

衛生的な行動や感染予防を友だちに伝えています

私はスラムに住んでいます。「子ども衛生グループ」に参加し、正しい手洗いのやり方、衛生的な行動、感染予防について学びました。今は新型コロナが流行っているので、人との距離を保ち、しっかりとマスクを着けるようにしています。学んだことを友だちに教えると、友だちの行動にも変化がみられ、うれしくなります。



スポルナちゃん

数値で見る成果

修繕・新設したトイレ

20基

研修に参加した地域の代表者

250人

「子ども衛生グループ」参加者

480人

トイレ、排水溝、水浴び場の整備により生活が改善した世帯

375世帯(1,497人)

開発 緊急 水・食糧支援

事業実施国 ウガンダ、ガーナ、コンゴ民主共和国、スーダン、ソマリア、タンザニア、南スーダン、ルワンダ、シリア、ヨルダン、カンボジア、バングラデシュ、ミャンマー

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力 / 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF) / 国連開発計画(UNDP) / 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR) / 国連世界食糧計画(WFP) / 世界銀行(WB)

皆さまからの募金額

■クリスマス募金	110,919,835円
■水と食糧のための募金	8,125,035円
■ラブ・ローフ募金	1,581,814円
■プロジェクト・サポーター	659,000円
■コミュニティ・サポーター	68,600,000円
■WVマラソンチャリティ募金	17,022,208円

(P13の「子どもの保護・参画」分、P16の「難民・国内避難民支援」分含む)

支援事業報告

アッパーナイル地方における緊急食糧支援事業(南スーダン)



支援の背景

全人口の65%が貧困にあえぐ過酷な状況

南スーダンでは、長年にわたる紛争の影響により、全人口の3分の2となる約750万人が人道支援を必要としています。2020年は新型コロナウイルスの蔓延やバッタの害虫被害が加わった結果、食糧価格の高騰、食糧不足がさらに深刻化し、特にぜい弱な立場にある女性や子どもたちの生活は、これまで以上に困窮を極めています。



栄養不良の子ども



食糧配布前に手洗いを徹底して行っています

ソーシャルディスタンスを保って、豆、油、トウモロコシなどの食糧を配布しています

紛争と自然災害による飢餓状態を改善

活動の成果

食糧不足に悩む人々の栄養改善が進んでいます

ワールド・ビジョン(WV)は国連世界食糧計画(WFP)と協働して、南スーダンのアッパーナイル州およびワラップ州において、紛争・自然災害等により、食糧へのアクセスが絶たれた人々に支援を届けています。今年度は、ぜい弱な立場に置かれた国内避難民、支援地域住民、5歳未満の子どもたち約10万人を対象に、食糧配布を行いました。また、98校の小学校に在籍する児童12,664人に対して、学校給食を提供しました。2020年3月下旬からは新型コロナウイルスの影響により、支援対象校を含めた全学校が休校となりましたが、10月以降に再開した学校では、児童に再び学校給食を提供しています。さらに、妊娠中・授乳中の女性を対象に、ソーシャルディスタンスやマスク着用の上で栄養補助食の配布や栄養研修等、栄養改善にも取り組みました。

支援地域からの声

母親グループのリーダーとして活動しています

私の息子はWVがワラップ州で実施している事業を通して、栄養状態が改善し、すっかり元気になりました。息子の通院がきっかけで、母親グループにも参加するようになり、今では母親グループのリーダーとして活動しています。私がかつて家庭菜園や栄養豊富な料理の作り方を教えてもらったように、私のグループも近所を回って栄養価の高い物を食べる必要性について啓発活動を続けています。



アレク・デンさんと息子(1歳7ヶ月)

数値で見る成果

食糧支援を受けた人

97,934人

学校給食を受け取った小学校と児童

98校 12,664人

栄養改善研修を受けた妊娠中・授乳中の女性

2,005人

栄養食を受け取った5歳未満の子ども

22,424人

緊急人道支援 難民・国内避難民支援

事業実施国 ウガンダ、コンゴ民主共和国、南スーダン、アフガニスタン、イラク、シリア、ヨルダン、バングラデシュ、ホンジュラス

連携機関 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF) / 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) / 国連児童基金 (UNICEF) / 国連人道問題調整事務所 (UNOCHA) / 欧州委員会人道援助・市民保護総局 (ECHO) / 教育を後回しにはできない (Education Cannot Wait) 基金 (ECW)



支援事業報告

ウガンダ北部における難民居住地での教育・子どもの保護事業(ウガンダ)



支援の背景

暴力や犯罪に巻き込まれる難民居住区の子どもたち

ウガンダのピティピティ難民居住地には、隣国南スーダンの内戦から逃れてきた人々が厳しい環境で生活しています。特に、避難する過程において保護者と別れてしまった子どもや知人等に養育されている子どもは、学校に通う機会がなく、暴力や犯罪などに巻き込まれるリスクが高くなっています。



食糧配布に並ぶ人々



短期集中教育プログラムの様子

CFSセンターで遊ぶ子どもたち

子どもたちの状況について聞き取りを行なうスタッフ(手前)

子どもたちに学ぶ喜びを失われた教育機会の回復

活動の成果

難民居住地の子どもたちに笑顔が戻っています

ピティピティ難民居住地で暮らす南スーダン難民とそれを受け入れるウガンダのホストコミュニティの両方の子どもたちに、教育の機会を提供しています。チャイルド・フレンドリー・スペース(CFS)センターと呼ばれる施設を整備し、3~9歳の子どもたちが安全に遊び、学べるように就学前教育プログラムを、また学校に通う機会を失っていた10代の子どもたちに小学校低学年のカリキュラムに該当する短期集中教育プログラムを提供するなど、支援を続けています。さらに、子どもの保護を担当するケースワーカーへの研修を行い、保護者と別れた子ども等厳しい環境にある子どもたちの保護や環境改善にも取り組んでいます。

支援地域からの声

安心して勉強できる環境に感謝しています

私は母と3歳半の娘と一緒に暮らしています。南スーダンにいた時、私は経済的な理由で8年間勉強する機会がありませんでしたが、ウガンダに来てワールド・ビジョンが支援する短期集中教育プログラムに参加しました。同じ場所には子どものための就学前教育プログラムもあるため、子どももここで学んでいます。将来は母国へ帰り、良い仕事に就いて、子どもを養っていききたいと思います。



勉強する喜びを実感するエヴァさん(17歳)

数値で見る成果

就学前教育に参加した子ども

6,437人

短期集中教育プログラムに参加した生徒

589人

個別支援を受けた子ども

6,479人

皆さまからの募金額

■夏期募金 92,800円

■難民支援募金 101,355,706円
(P23の「新型コロナウイルス感染症緊急対応」分含む)

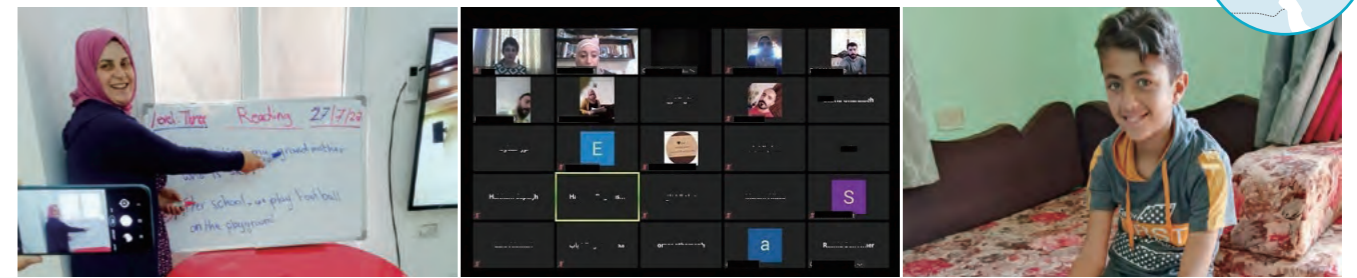
■コミュニティ・サポーター 68,600,000円
(P13の「子どもの保護・参画」分、P14の「水・食糧支援」分含む)

■プロジェクト・サポーター(難民支援) 24,063,000円
(P23の「新型コロナウイルス感染症緊急対応」分含む)

■シリア緊急支援募金 411,500円

支援事業報告

シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業(ヨルダン)



オンラインツールを使って授業を配信する教師

オンライン授業のための教師研修

遠隔(自宅)で授業を受ける男の子

コロナ禍でも子どもたちに質の高い教育を提供

支援の背景

子どもたちにのしかかる教育の中断とコロナ禍のストレス

65万人以上の難民を受け入れるヨルダンでは、新たな課題として、難民キャンプやホストコミュニティでの新型コロナウイルス感染拡大のリスク、ロックダウンと外出制限による雇用機会の喪失、またそれともなう貧困の増加が発生しています。子どもたちへの影響も大きく、学校閉鎖による基礎学力や学習意欲の低下、また外出制限や感染への不安によるストレスの増加がみられています。

活動の成果

コロナ禍でも途切れることのない学習支援

学校の一時閉鎖を受け、4月から遠隔での補習授業を開始しました。週に2回、子どもたちは保護者の携帯電話を通じて、教師が作成した授業動画とワークシートを受け取り、動画を見て、ワークシートに取り組む自主学習を行います。さらに週に1回、オンラインツールを利用した授業を実施。教室での授業と同じように、子どもたちが自由に質問や発言ができるような双方向の授業を提供しました。学校再開の目途が立たない中、教師や事業スタッフも様々な困難に直面しながら手探りで事業実施となりましたが、遠隔でありながら子どもたちが継続的に学べる環境を提供し、文章力や読解力の向上など着実に基礎学力が定着していきました。コロナ禍においても途切れない学習支援が子どもたちの明るい未来につながります。

数値で見る成果

遠隔での補習授業に参加した子ども

569人

コロナ禍での子どものケアについて情報を届けた保護者

582人

子どもの指導・ケアについて研修を受けた教職員

124人

支援事業報告

シリアでの紛争の影響を受けた子どもたちへの教育・保護支援事業(シリア)



活動の成果

勉強できる環境が子どもと保護者の心の支えに

シリア紛争で荒廃し、復興の兆しが見えない地域で暮らす子どもたちとその家族への支援として、補習授業、レクリエーション、および、ケース・マネジメントを通じた個別支援を実施しました。多くの子どもたちは、紛争や学校の破壊により長期間学校に通えず、学習の遅れが顕著でした。その上、2020年は新型コロナウイルス対策のための学校閉鎖によって、厳しい生活環境下にいる子どもたちは安心して過ごすこと、自主学習をすることさえできませんでした。事業地の厳しい環境に起因する課題により活動実施期間が短縮されることもありましたが、支援を受けた子どもたちのほぼ全員に学力向上がみられ、子どもたちやその保護者から多くの感謝の声が寄せられました。



補習授業の様子

国内での事業

日本国内で、災害の影響や貧困で困難に直面する子どもたちに寄り添い、支援を届けています。



国内支援

新型コロナウイルス対策子ども支援事業

コロナ禍でも子どもたちの食・遊び・学びを止めない

新型コロナウイルス感染症拡大により影響を受けている子どもたちの食・遊び・学びを支えることを目的として、日本国内での「新型コロナウイルス対策子ども支援事業」がスタート。地域社会で活動する子ども支援団体(2020年度実績13団体・15事業)への助成を通じて、緊急の食材・弁当配布や子ども食堂の継続、外国にルーツを持つ子どもを含む子どもの学習支援、遊び場・居場所等のオンライン化による継続支援等を行い、計1,467人に支援を届けました。同時に、これらの団体が継続的に安全で安定的な支援活動ができるよう、必要な研修等を提供し、組織やスタッフの能力強化についてもサポートしました。この事業はニーズの変化に応じて取り組みを見直しつつ、2021年度も継続します。



助成を行った特定非営利活動法人ワークスコープ「みんなのふくろう食堂」での弁当配布の様子

子どもの権利条約フォーラム2019

子どもの権利が大切にされる社会の実現をめざして

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は、国内外で子どもの権利や子ども支援に取り組む市民団体等とともに、「広げよう!子どもの権利条約キャンペーン」の実行委員団体として活動しています。「子どもの権利条約」が国連で採択されてから30年、日本が批准してから25年の節目の年にあたる2019年11月には、このキャンペーンの一環として、「子どもの権利条約フォーラム2019」が開催され、両日とも300人以上が参加しました。WVJは実行委員団体としての働きのほか、「多文化共生」「災害と子どもの権利」の分科会の企画担当、「セーフガーディング」の分科会への開催協力等を行いました。



「災害と子どもの権利」分科会でのワークショップの様子

スタッフの声

子どもの権利が守られる社会づくりに取り組んでいます

2020年度の国内支援は多岐にわたり、国内災害関連でも、令和元年台風第19号緊急支援、他団体との連携や団体内の体制強化等を行いました。一方で、新型コロナウイルス感染症が拡大し、子どもの権利が容易に脅かされる日本社会の課題が浮き彫りとなる中、困難な状況にある子どもたちに必要な支援を迅速かつ確実に届けるため、地域の子どもの支援団体への助成という新たな取り組みを開始しました。今後も、子どもに関わる多様な主体と連携・協力し、子どもの権利が守られる社会づくりに貢献してまいります。(高橋布美子スタッフ)



アドボカシー

子どもを取り巻く問題の根本解決を目指し、不公正な社会を変えていくため、政府や市民社会に訴えます。



アドボカシー



国際シンポジウム「緊急時の教育支援」

教育の力と重要性を専門家と議論しました

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は、「教育を通じて、紛争や貧困により移動を強いられる子どもたちに対する暴力を撤廃し、暴力が繰り返されない未来を築く」ことを目指して「Take Back Future」キャンペーンを展開しています。2019年10月には、加盟する「教育協力NGOネットワーク(JNNE)」とともに「教育を後回しにはできない(Education Cannot Wait)基金(ECW)」のヤスミン・シェリフ事務局長を日本に招聘し、外務省副大臣や複数の国会議員と対話の機会を持ったほか、上智大学・ECW・JNNEとの共催にて国際シンポジウムを開催し、各分野の専門家とともに緊急人道危機下における教育の重要性と日本としてできることについて議論しました。



JNNE副代表としてシンポジウムに登壇する柴田スタッフ(登壇者手前)

SDGs国連ハイレベル政治フォーラム

HLPFのサイドイベントに登壇、関係者と意見を交換しました

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年ニューヨークで開催されていた国連ハイレベル政治フォーラム(HLPF)や関連する国際会議・サイドイベント等はすべてオンラインでの実施となりました。このような状況の中、WVJが重視するSDGsターゲット16.2「子どもに対するあらゆる暴力をなくす」を含むSDGsゴール16「平和と公正をすべての人に」が、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けていることを踏まえ、日本の市民社会ネットワークや韓国、アジアの市民社会とともにHLPFのサイドイベントをオンラインで共催・登壇しました。また、関連する国際会議への登壇やレポートの執筆を通じて、現状や課題を訴え、国内外の多くの人々と意見を交換しました。



オンライン国際会議終了後の一コマ

*「Take Back Future」キャンペーン

「紛争・貧困で移動を強いられる子どもへの暴力撤廃を教育の力で!」 WVJは、紛争や貧困により移動を強いられる子どもたちに対する暴力を撤廃し、暴力が繰り返されない未来を築くことを目指し、「Take Back Future~難民の子どもを取り戻そう~」キャンペーンを2018年から4年間の計画で実施しています。「教育の力」を通じて、子どもたちが暴力から守られ、健やかに成長し、暴力が繰り返されることのないよう、①日本社会での関心喚起、②支援活動、③アドボカシーに取り組みます。今年度の活動については、①をP22下②をP15-16、③を本ページでご報告しています。



企業・団体との連携

企業との連携

1,779社から、総額309,839,167円のご支援をお寄せいただきました

企業の皆さまから、チャイルド・スポンサーシップ、特別プロジェクト、商品・サービスの売り上げからの寄付、社員募金と企業のマッチング募金、ボランティアへの協力など、様々な支援・協力をいただきました。また今年度は、新型コロナウイルス緊急対応への支援も多くお寄せいただきました。

2020年度支援実例紹介(一部)

特別プロジェクトによる支援



武田薬品工業株式会社

武田薬品工業が展開するグローバルCSRプログラムの支援により、「地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム」をアフガニスタン、インド、バングラデシュ、ネパールの4カ国で実施しています。



塩野義製薬株式会社

ご法人とシオノギグループ社員からのご寄付をもとにケニアの母子保健改善に向けた取り組み「Mother to Mother SHIONOGI Project」をご支援いただいています。2020年4月から南西部キリフィ県で第2期事業が開始しました。



パナソニック株式会社

パナソニックの太陽光発電・蓄電システム商材を活用した収入創出活動、夜間識字教育などを実施することで、人々の生活改善・コミュニティの自立に貢献する「無電化地域ソリューションプロジェクト」をケニアで実施しています。

チャイルド・スポンサーシップ等を通して



山崎製パン株式会社

チャイルド・スポンサーシップを通して、ルワンダとバングラデシュのチャイルドを支援くださっています。また2020年度は、ヤマザキ「ラブ・ローフ募金」により、ルワンダでの給水設備整備支援事業を実施しました。



玉の肌石鹸株式会社

20年以上の長きにわたって国内外の子どもたちを支援いただき、関係会社とあわせて100人のチャイルド・スポンサーとして、子どもたちの成長を見守ってくださっています。



株式会社チュチュアンナ

チャイルド・スポンサーシップを通して、25人のチャイルドを支援いただいています。また2020年度は、特別プロジェクトとしてミャンマーでの就学前教育センター建設支援事業を実施しました。



クラウドバンク・グループ

クラウドファンディング事業等から得た収益をもとに、アジア5カ国100人のチャイルド・スポンサーとして、子どもたちの成長を支えていただいています。



株式会社山田養蜂場

世界8カ国100人のチャイルド・スポンサーとして支援いただいています。社員の方々もチャイルドからの手紙を楽しみにして、交流を続けてくださっています。



三菱自動車工業株式会社

12人のチャイルド・スポンサーとしての支援に加え、2020年度は「新型コロナウイルス緊急対応募金」にもご協力いただきました。

商品・サービスの売り上げからの寄付



ジースブレッド株式会社 若尾製菓株式会社

チャイルド・スポンサーシップを通じた支援に加え、「しあわせのカルテットクランチ」「Happy Gift」「やさしさセット」の売り上げからの寄付により、アジア・アフリカでの学校建設を支援くださっています。

支援・協力をいただいた企業(一部)



セブン&アイ アベスコ基金

東芝プラントシステム株式会社

東芝プラントシステム株式会社



ヒロセ通商株式会社



ファルマ・ソリューションズ株式会社



株式会社タイセイ



有限会社香取運輸



株式会社レントラックス



株式会社ウチヤマホールディングス



株式会社シンシア



日清製粉株式会社



株式会社プチファーマシスト



ハニカム・テクノロジー株式会社



オリエンタル酵母工業株式会社



月島食品工業株式会社



アース製薬株式会社



ヤフー株式会社



NTT Com DD株式会社



株式会社NTTデータ

ミヨシ石鹸株式会社
MS&ADゆにぞんスマイルクラブ 日本手芸普及協会
株式会社ライフクレヨンスタイル
株式会社ALEFS
株式会社秋山住研
株式会社isisホールディングス
株式会社アプリシエイト

キャリアインベーション株式会社
株式会社マスパック
株式会社ニッシンイクス
株式会社Free Life Consulting
株式会社双雲事務所
チーカス株式会社 サラフイープラス事業部
株式会社BOLS・1987

株式会社うおはん
株式会社ブルマーレ
医療法人社団スマイルこどもクリニック
株式会社インプレザリオ
株式会社エイト設計
山下湘南夢クリニック
三菱自動車STEP募金

各種団体との連携(一部)

1,141団体から、総額70,507,642円の支援が寄せられました

特定非営利活動法人あおぞら
公益財団法人毎日新聞東京社会事業団
第1回日本在宅医療連合学会大会
気仙沼漁業協同組合
学校法人捜真学院捜真小学校
St. Michael's International School
梅光学院大学

学校法人愛徳学園愛徳学園小学校
学校法人ベタニヤ学園日進ベタニヤ幼稚園
学校法人博多学園博多高等学校
梅光学院中学校・高等学校
玉川聖学院高等部
学校法人カトリック学園愛児幼稚園
学校法人広島女学院

日本福音キリスト教会連合 グレースコミュニティ
日本イエス・キリスト教団 荻窪栄光教会
ウェスレアン・ホーリネス教団 淀橋教会
日本ホーリネス教団 池の上キリスト教会
シオン・キリスト教団 蒲田教会
東京フリー・メソジスト小金井教会
日本キリスト教団 渋谷教会

広がる支援の輪(特別プロジェクト)

チャイルド・スポンサーシップによる地域プログラムに加えて、教育、保健・栄養改善、水衛生等特定の分野の課題解決を後押しするための個別事業を「特別プロジェクト」として実施しています。特別プロジェクトは、学校校舎や診療所等の建設事業と研修・啓発事業等を組み合わせて行われます。支援者は企業・団体、個人等様々ですが、近年では遺贈・相続財産のご寄付による支援も増えています。

個人による支援

ケニアで高校寄宿舎と校舎を建設

徳島県在住のO様は、ケニアでの高校寄宿舎・校舎建設を支援くださいました。対象の高校は、教育省との長年にわたる協議の末に誕生した、地域の方々にとっての“夢の高校”です。寄宿舎と校舎が整備されることにより、より多くの子どもたちが高校に進学し、安全な環境で学業を継続できるようになります。「学習環境が整備されることによって、現地の子どもたちが世界、あるいは自国に貢献できる人材として育てていただくことを祈っています」(O様)



対象の高校で学ぶ生徒たち



O様の支援により建設された校舎

遺贈・相続財産による支援

カンボジアで小学校の図書館建設を支援

東京都在住のM様は、子どもたちへの教育に情熱を注がれていたお姉さまから引き継いだ相続財産により、カンボジアの小学校での図書館建設を支援くださいました。小学校からは、「今後何世代にもわたって図書館が使われ、子どもたちが本から新たな知識を得ていけることがとても幸せです」「勉強がもっと楽しくなりました」という喜びの声が届いています。



完成した図書館で読書を楽しむ子どもたち



マイルストーン・プロジェクトによる支援

内戦で被害を受けた学校の修復を支援

「マイルストーン・プロジェクト」は、一口あたり100万円の寄付を複数の方々からいただき、共同でひとつの事業を実施するものです。共同で支援いただくことで、より規模の大きい事業を実施することができます。2020年度は、本プロジェクトを通して、内戦で大きな被害を受けたイラクのシンジャー地区での学校修復支援事業を実施しました。



紛争によって破壊された教室



修復された学校で学ぶ子どもたち

皆さまとともに

イベントやボランティア等、多くの方にワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動に参加いただいています。

グローバル教育

世界に目を向ける取り組みに、多くの子どもたちが参加

日本の子どもや若者が世界の問題を理解し、自分の生活との関連に気付くことを願って実施しているグローバル教育。WVJのスタッフが学校を訪問して世界の問題を解説する「講師派遣」や修学旅行生等を受け入れる「事務所訪問」を行っています。今年度はコロナ禍で規模が縮小したものの、講師派遣・事務所訪問を28件実施し、2,157人の子どもたちが参加してくれました。毎年大好評のサマースクールは、オンラインでの開催となりましたが、地方や海外に住む子どもたちも気軽に参加できると好評でした。

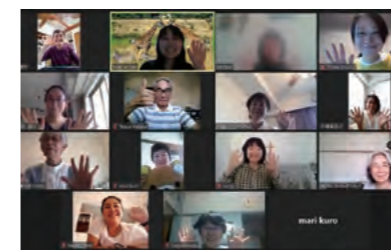


スタッフが学校を訪問

ボランティア

241人の皆さまが、活動を支援してくださいました

通常の活動ができた2019年10月～2020年2月は、事務所や在宅で、チャイルド・スポンサーシップの手紙交流に関わる事務・翻訳、動画やデジタル素材の編集、WVJからのご案内の発送などを幅広く担っていただきました。3～9月は在宅での一部の業務以外は全面的に休止となりましたが、個々人のSNS等を通じてWVJを応援するメッセージを送ってくださる等、引き続き様々な形で支援してくださいました。



活動休止期間中に、初めてオンラインで近況報告と交流の機会をもちました

ワールド・ビジョン・カフェ

全国の支援者と交流、のべ1,075人が参加

団体紹介とチャイルド・スポンサーシップを通じた支援活動等について報告する「ワールド・ビジョン・カフェ(WVカフェ)」を、2月までに、東京で2回と、広島・福岡で1回ずつ開催しました。4月以降は、スタッフが各地を訪問する活動報告や参加者同士の対面交流は叶いませんでしたが、オンラインイベントを8回開催。普段はなかなか訪問できない地域に住む方々の参加もあり、全国の支援者の皆さまとオンラインで交流することができました。



東京で開催したWVカフェの交流タイムの様子(2019年11月)

アイデア・コンペティション「未来ドラフト2020」



※Take Back Futureキャンペーンについて詳しくはP18下をご覧ください

三重県の高校生がグランプリ受賞

若い世代に難民問題を知ってもらおうと毎年開催しているアイデア・コンペティション「未来ドラフト」。3回目となる2020年度は「難民アスリートに注目を集める仕掛けを考えてください」というテーマのもと、全国から約60件のアイデアが寄せられました。ベスト8に進んだチームが審査員にプレゼンテーションをしてグランプリを競う決勝大会を、6月にオンライン配信型で開催。三重県の高校生かれんさんのアイデア「難民アスリートによる、愛の言葉の訳し方」がグランプリ賞に輝きました。



プレゼンを披露した8チームの皆さんと、司会の塩田真弓さん(テレビ東京キャスター/舞台左)、審査員の酒井美紀さん(WVJ親善大使/舞台右)

新型コロナウイルス感染症 緊急対応



皆さまからの募金額
■新型コロナウイルス
緊急対応募金 **72,652,406円**

ワールド・ビジョン史上最大規模での緊急支援を実施

2020年1月、ワールド・ビジョン(WV)は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対する緊急支援をアジア地域で開始しました。3月11日にWHO(世界保健機関)がパンデミックを宣言すると、その数時間後にはWV史上最大規模での緊急支援を決定。従前より実施していた開発プログラム(チャイルド・スポンサーシップ等)の支援地域に加えて、医療体制が弱い国や難民・避難民が多い国等、**世界70カ国以上で活動を進め、2020年度は、約5,100万人に支援を届けました。**

支援4つの柱



感染拡大の防止

感染予防策を伝えた人の数
27,873,060

感染予防キットを届けた人の数
13,163,648
等



保健システムと 医療従事者のサポート

トレーニングした
地域ヘルスワーカーの数
105,047

防護具を提供した
医療従事者の数
409,099
等



子どものケア

社会心理的な
サポートをした人の数
2,762,312

食糧支援を届けた人の数
6,165,672
等



子どもの保護を目的とした 協働とアドボカシー

国際社会や各国政府に対する
働きかけによって変わった政策の数
240

連携した国際機関、NGO、
市民団体の数
927
等



正しい情報が感染を防ぐ

新型コロナウイルスに関する正しい情報を伝えることは、感染対策として重要です。情報に接する機会の少ない途上国の地域では、その地域の信仰指導者の発言が地域の人々に有効に伝わります。そのため、様々な宗教の指導者たちと協力して、誤った情報の拡散を阻止し、その地域の状況に即した方法で啓発活動を実施しました。



ラジオを通じて感
染予防策を呼び
かける様子
(南スーダン)

2020年度 会計報告

正味財産増減の状況 2019年10月1日より2020年9月30日まで(単位:千円)

I. 一般正味財産増減			
経常収益			
1 受取寄付金	受取スポンサーシップ募金	3,171,565	
	受取その他募金・寄付金(1)	882,883	4,054,448
2 受取補助金等	政府系機関からの受取補助金等	265,396	
	(2) 民間団体からの受取助成金等	435,606	
	国連機関からの受取委託金等	1,140,588	1,841,590
3 受取会費		610	
4 基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益		3,739	
経常収益合計(A)		5,900,387	
経常費用			
1 事業費	地域開発援助事業費	4,847,785	
	地域開発援助・委託援助事業費(※)	4,660,083	
	地域開発援助事業管理費(5)	187,702	
	人材派遣費(3)	5,875	
	啓発教育費	867,949	
	各種啓発教育費(4)	517,131	
	啓発教育事業管理費(5)	350,818	5,721,609
2 管理費(5)		90,836	
経常費用合計(B)		5,812,445	
経常外収益			
1 固定資産売却益		40	
経常外収益合計(C)		40	
当期一般正味財産増減額(A+C)-(B)		87,982	
一般正味財産期首残高		1,429,134	
一般正味財産期末残高(D)		1,517,116	
II. 指定正味財産増減			
当期指定正味財産増減額		-332,681	
指定正味財産期首残高		615,728	
指定正味財産期末残高(6)(E)		283,047	
III. 正味財産期末残高			
正味財産期末残高(※※)(D)+(E)		1,800,163	

※地域開発援助・委託援助事業費の内訳(アドボカシー費5千円除く)については、P27-28の支援事業一覧をご覧ください。

※※正味財産の内訳は、資産・負債の状況のIII.正味財産の部を参照ください。

(1)~(7)については、次ページからの「会計報告の注記」を参照ください。

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは2020年度財務諸表等(2019年10月1日より2020年9月30日まで)について、以下の監査を受けています。

2020年11月11日 森岡伸介公認会計士事務所による監査

2020年11月18日 監事による監査

【数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン(P3-4)について】

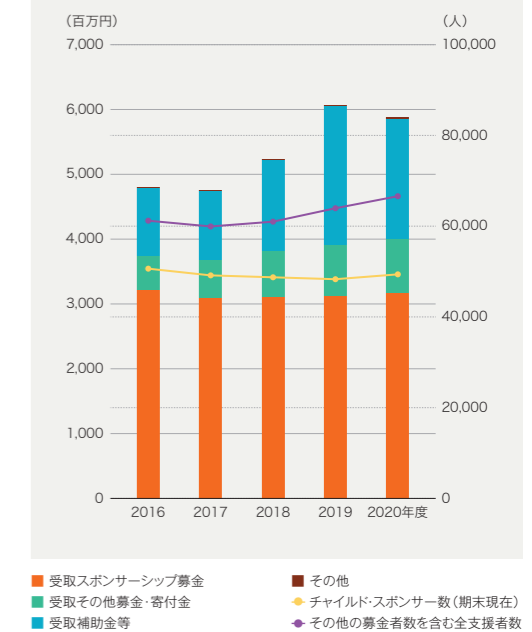
- 「資金の集め方」は、上記会計報告の「経常収益合計(A)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
チャイルド・スポンサーシップ募金：「受取スポンサーシップ募金」
その他募金・寄付金：「受取その他募金・寄付金」
補助金等：「受取補助金等」
その他：「受取会費」「基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益」

- 「資金の使い方」は、上記会計報告の「経常費用合計(B)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
現地事業活動のため：「地域開発援助事業費」「人材派遣費」
広報活動のため：「啓発教育費」
団体の運営・管理のため：「管理費」

資産・負債の状況 2020年9月30日現在(単位:千円)

I. 資産の部		
1 流動資産	現金預金	439,540
	前払金	411,186
	立替金	21,756
	未収金	1,746
	仮払金	1,865
	その他流動資産	262
		2,725
2 固定資産		1,638,414
	基本財産	50,000
	特定資産(6)	1,514,546
	補助金・助成金引当資産	188,622
	地域開発援助事業引当資産	1,052,000
	募金引当資産	94,425
	その他特定資産	179,499
	その他固定資産(7)	73,868
資産合計		2,077,954
II. 負債の部		
1 流動負債	未払金	138,292
	預り金	108,058
	仮受金	7,509
	賞与引当金	0
	未払法人税等	22,655
		70
2 固定負債		139,499
	退職給付引当金	139,499
負債合計		277,791
III. 正味財産の部		
1 指定正味財産		283,047
	(うち特定資産(6)への充当額)	(283,047)
2 一般正味財産		1,517,116
	(うち基本財産への充当額)	(50,000)
	(うち特定資産(6)への充当額)	(1,052,000)
正味財産合計		1,800,163
負債及び正味財産合計		2,077,954

経常収益の推移



会計報告の注記

●重要な会計方針の要約

- 1) 財務諸表の作成基準：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは「公益法人会計基準」(2008年4月11日 2020年5月15日改正 内閣府公益認定等委員会)に基づいて会計処理および財務諸表等の作成を行っています。
- 2) 固定資産の減価償却について：定額法による減価償却を実施し、償却額控除後の価額を表示しています。
- 3) 引当金の計上基準：
 - 賞与引当金：職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上しています。
 - 退職給付引当金：職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務および年金資産に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しています。
- 4) 消費税等の会計処理：消費税等の会計処理は、税込み経理方式によっています。

(1) 受取その他募金・寄付金の内訳(単位:千円)

児童保護募金	3,657
誕生日記念募金	24,572
危機にある子どもたちのための募金	48,072
ラブ・ロープ募金	13,823
うちラブ・ロープ募金	1,582
うちヤマザキ「ラブ・ロープ」募金	12,241
緊急援助募金	80,236
うち新型コロナウイルス緊急支援募金	72,652
うちシリア緊急支援募金	412
うちミャンマー難民危機緊急支援募金	251
うちレバノン爆発緊急支援募金	813
うち令和元年台風19号緊急支援募金	1,876
クリスマス募金	110,920
水と食糧のための募金	8,125
夏期募金	93
難民支援募金	101,356
コミュニティ・サポーター	68,600
プロジェクト・サポーター	659
プロジェクト・サポーター(難民支援)	24,063
アオスの子どもたちのための募金	50,981
特別プロジェクト募金	279,201
WVマラソンチャリティ募金	17,022
物資の受入	2,040
その他の募金・寄付金	49,463
受取その他募金・寄付金合計	882,883

(3) 人材派遣費

人材派遣費とは、地域開発援助事業等の事前調査・視察・調整のための短期調整員・駐在員・海外契約スタッフ・外部専門家派遣に関わる費用です。

(4) 各種啓発教育費の内訳(単位:千円)

広告費	429,735
各種広告費	359,962
パンフレット等印刷費・通信運搬費他	69,773
広報費	30,643
年次報告書(2019年度版)制作・発送費等	11,155
団体ホームページ制作費等	8,461
その他の広報活動費	11,027
ニュースレター制作・発送費等	18,146
チャイルド・スポンサーおよび寄付者への連絡物制作・発送費等	35,137
その他啓発費等	3,470
グローバル教育活動・学校訪問等の費用	1,536
ラブ・ロープ募金箱の製作・運搬費等	1,405
活動報告会	442
その他の啓発活動費	87
各種啓発教育費合計	517,131

(2) 受取補助金等の内訳(単位:千円)

政府系機関からの受取補助金等	265,396
外務省 日本NGO連携無償資金協力	265,396
ネパール/ドティ郡学校・コミュニティ防災事業(3年次)	7,855
カンボジア/タケオ州における母子健康改善事業(3年次)	19,148
バングラデシュ/北ダッカ市ミルプールの貧困層居住地区におけるコミュニティのこみ・衛生管理能力強化事業1(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途18,553千円保有しています。)	50,557
ラオス/タハントン郡における初等教育の学習環境改善事業1(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途17,679千円保有しています。)	38,974
タンザニア/ムキンガ郡における水の安全保障プロジェクト1(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途21,789千円保有しています。)	68,376
エチオピア/アムハラ州フェレゲ・ヒワット病院の安全・衛生環境改善事業1(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途22,413千円保有しています。)	30,856
ベトナム/ティエンビエン省における山岳民族の女兒と女性に対する人身取引予防事業1(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途29,468千円保有しています。)	23,394
カンボジア/プレアピビア州における母子保健・栄養・水衛生改善事業1(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途21,346千円保有しています。)	26,236
民間団体からの受取助成金等	435,606
特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム	421,982
南スーダン/タンブラ郡教育システムにおけるレジリエンス強化事業3	8,471
ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業5	-1,417
ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業6(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途10,385千円保有しています。)	112,396
エチオピア/ガンベラ州ジョウイ難民キャンプにおける中等教育環境整備事業	-31
バングラデシュへの避難民居住地におけるジェンダーに基づく暴力削減支援事業	-59
バングラデシュへの避難民居住地におけるジェンダーに基づく暴力被害防止事業	15,945
バングラデシュへの避難民居住地におけるジェンダーに基づく暴力からの保護とコミュニティの対応力強化事業(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途15,239千円保有しています。)	14,153
バングラデシュのミャンマー避難民居住地における新型コロナウイルス感染予防のための水・衛生支援事業(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途1,554千円保有しています。)	11,750
ウガンダ南スーダン難民居住地での教育環境および子どもの保護環境改善事業	-7
ウガンダ北部における難民居住地での教育・子どもの保護事業	28,298
イラク/モスル西部で紛争の影響を受けた子どもたちのための教育・保護環境改善事業	25,371
イラク/モスル西部の緊急期における子どもの保護事業(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途2,469千円保有しています。)	13,949
南スーダンセントラル・アッパーナイル・緊急期の教育支援事業(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途4,433千円保有しています。)	118,775
南スーダンアッパーナイルにおける緊急期の教育支援事業(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途20,992千円保有しています。)	23,044
シリア南西部における紛争の影響を受けた子どもたちへの教育・保護支援事業	33,709
シリア北西部における国内避難民への水衛生支援事業(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途2,302千円保有しています。)	17,635
パナソニック株式会社	13,624
ケニアエンクトト地区電化による生活改善支援事業	13,624
国際機関からの受取委託金等	1,140,588
国際児童基金(UNICEF)	172,573
国連開発計画(UNDP)	33,266
国連世界食糧計画(WFP)	568,963
うち、受取委託物品	451,328
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	58,286
国連人道問題調整事務所(UNOCHA)	46,008
欧州委員会人道援助・市民保護総局(ECHO)	238,995
教育を後回しにはできない(Education Cannot Wait)基金(ECW)	22,497
受取補助金等合計	1,841,590

マイナス表記となっている収入は、昨年度以前に受け取った補助金等を精算した際の返金額です。

(5) 事業管理費等の内訳、および集計(単位:千円)

事務局の運営に関わる事業管理費等は、以下の3つの科目に分けて計上しています。

地域開発援助事業管理費(以下、地開管理費)：地域開発援助事業に直接かかわる国内管理費
啓発教育事業管理費(以下、啓発管理費)：啓発教育事業に直接かかわる国内管理費
管理費(以下、管理費)：その他一般の国内管理費

各管理費の内訳、および内訳ごとの集計は以下の通りです。

	事業管理費等合計	地開管理費	啓発管理費	管理費
人件費等	393,786	141,303	189,474	63,009
会議費	2,424	404	1,406	614
旅費交通費	9,251	3,089	4,711	1,451
賃借料	75,655	26,438	36,767	12,450
支払手数料	106,814	450	101,116	5,248
その他の管理費	41,426	16,018	17,344	8,064
合計	629,356	187,702	350,818	90,836

人件費等：職員等の給与手当、法定福利費等。なお2020年9月30日現在、職員75名、嘱託・アルバイト6名が在職
会議費：ワールド・ビジョン・パートナーシップ内等の国際会議出席のための渡航費用、その他国内会議費用
旅費交通費：職員の通勤費、事務ボランティアの方の事務所までの交通費等
賃借料：事務所家賃
支払手数料：入金にかかる口座引落およびクレジット決済等の手数料、銀行・郵便局等金融機関の振込手数料等

(6) 特定資産の内訳(単位:千円)

補助金・助成金引当資産(指定正味財産)の内訳	
NGO連携無償助成金バングラデシュ ダッカ1事業分	18,553
NGO連携無償助成金ラオス1事業分	17,679
NGO連携無償助成金タンザニア1事業分	21,789
NGO連携無償助成金エチオピア パナルダール1事業分	22,413
NGO連携無償助成金ベトナム人身取引予防1事業分	29,468
NGO連携無償助成金カンボジア プレアピビア1事業分	21,346
ジャパン・プラットフォーム助成金ヨルダン6事業分	10,385
ジャパン・プラットフォーム助成金バングラデシュ4事業分	15,239
ジャパン・プラットフォーム助成金バングラデシュCOVID-19事業分	1,554
ジャパン・プラットフォーム助成金イラク3事業分	2,469
ジャパン・プラットフォーム助成金南スーダンセントラル・アッパーナイル1事業分	4,433
ジャパン・プラットフォーム助成金南スーダンセントラル・アッパーナイル2事業分	20,992
ジャパン・プラットフォーム助成金シリアノースウエスト1事業分	2,302
補助金・助成金引当資産合計	188,622

当年度までに受領した上記事業にかかる補助金のうち、2021年度以降に支出を予定している金額です。

地域開発援助事業引当資産の内訳

スポンサーシップ地域開発援助事業引当資産(f)	805,000
一般募金による地域開発援助事業引当資産(i)	237,000
緊急援助事業引当資産(f)	10,000

地域開発援助事業引当資産合計

1,052,000

(f)チャイルド・スポンサーシップによる事業(以下SP事業とする)に用途を特定した資産であり、2021年度以降のSP事業、為替相場変動によるSP事業への影響回避のための準備金、SP事業における緊急事態(緊急医療・自然災害・火災等)対応への準備金として、支出を予定しています。

(i)SP事業以外の地域開発援助事業(緊急・復興支援事業含む)に用途を特定した資産であり、2021年度以降に支出を予定しています。

(*)大規模な自然災害や紛争の発生時の、初動の緊急支援活動のための準備金です。

募金引当資産(指定正味財産)の内訳	
地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム5年次以降事業分	94,425
募金引当資産合計	94,425

その他特定資産の内訳	
退職給付引当資産	139,499
固定資産引当資産	40,000

その他特定資産合計

179,499

(7) その他の固定資産の内訳(単位:千円)

建物附属設備	5,405
什器備品	10,621
ソフトウェア	7,556
電話加入権	373
敷金	49,913
その他の固定資産 合計	73,868

(8) 保証債務等

当団体は保証債務等の責は一切負っておりません。

(9) 為替レートについて

ワールド・ビジョン・パートナーシップでは、現地の地域開発援助事業等は米ドルにて予算管理を行っており、為替予約等によって、為替相場の変動による事業への影響をできるだけ抑えるよう努めています。2020年度(2019年10月1日~2020年9月30日)の地域開発援助事業費の総平均レートは、1米ドル=106.26円でした。

監査と情報公開

ワールド・ビジョン・ジャパンでは、会計および業務全体に関して2名の監事による内部監査とともに、外部の独立した公認会計士に依頼して会計監査を受けています。その会計報告の概要は、年次報告書やホームページで公開しています。また、特定非営利活動法人および認定NPO法人としての事業報告書等を、所轄庁である東京都に提出し、情報公開を行っています。ワールド・ビジョン全体としては、内部に監査機関を設置し、各国のすべての事務所が最低でも3~5年に一度、事務所全体の業務監査と会計監査を受けることになっています。もし監査の過程で疑義等が発生した場合は、その都度適切な対処を行います。

2020年度 支援事業一覧

国名	プロジェクト名	チャイルド・スポンサーシップによる支援額	その他募金による支援額	助成金・委託金による支援額	合計	受益者数(人)	支援チャイルド数(人)	
海外支援	カンボジア	ボニャー・ルウ地域プログラム	29,075,699			24,294	900	
		トモ・アオ地域プログラム	41,944,595			41,944,595	1,600	
		ボレイ・チュルサル地域プログラム	45,729,070			45,729,070	1,800	
		タケオ州における母子健康改善事業(3年次)		4,788,043	15,806,070	20,594,113	239,656	
		プレアヴィア州における母子保健・栄養・水衛生改善事業1		10,271,511	25,440,424	35,711,935	118,585	
		コク・ボウ小学校 図書館建設支援事業		3,685,658		3,685,658	567	
		ボウ・モントレー小学校 図書館建設支援事業		3,685,658		3,685,658	134	
		旧バランサイ地域開発プログラム		15,324,495		15,324,495	109,692	
		旧バランサイ地域開発プログラム		6,324,174		6,324,174	32,823	
		タバントン郡における初等教育の学習環境改善事業1		11,962,331	36,691,105	48,653,436	40,580	
東アジア	モンゴル	ハイラスタ地域プログラム	50,663,079			57,306	1,900	
		バヤン・ウルギー地域プログラム	55,107,210			55,107,210	2,000	
		タバウン地域プログラム	36,267,884			36,267,884	1,300	
		カンディタン地域プログラム	6,970,687			6,970,687	25,000	
		ライカイン州における食糧配布事業および栄養支援事業		4,433,092	239,582	239,582	65,404	
		ライカイン州における食糧配布事業および栄養支援事業(上記継続事業)		7,652,675		168,614,448	56,400	
		ライカイン州北部における食糧配布および栄養支援事業		1,044,305	1,124,459	2,168,764	50,193	
		ヤンゴン管区における乳幼児および妊産婦への栄養支援事業			461,443	461,443	910	
		トンク地域プログラム	24,977,534			24,977,534	8,536	
		タバヤ地域プログラム	18,076,124			18,076,124	34,790	
東南アジア	タイ	チャンエン地域プログラム	27,991,028			27,991,028	1,000	
		ムオンチャ地域プログラム	28,488,686			28,488,686	49,891	
		トアザオ地域プログラム	29,434,804			29,434,804	10,436	
		ダバク地域プログラム	31,537,290			31,537,290	13,286	
		ディエンビエン省における山岳民族の女児と女性に対する人身取引予防事業1		6,421,761	22,128,059	28,549,820	20,059	
	南アジア	インド	フルバリア地域プログラム	73,587,010			73,587,010	213,575
			ビロル地域プログラム	68,330,795			68,330,795	66,008
			ビルゴジ地域プログラム	63,074,580			63,074,580	75,128
			イスラムアール地域プログラム	8,409,944			8,409,944	83,970
			北ダッカ市ミルプールの貧困層居住地区におけるコミュニティのこみ・衛生管理強化事業1		9,704,142	47,163,315	56,867,457	125,000
		地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム支援事業(バングラデシュ)		18,897,228		18,897,228	205,020	
		バングラデシュへの避難民居住地区におけるジェンダーに基づく暴力被害防止事業		2,823,391	12,190,630	15,014,021	23,072	
		バングラデシュへの避難民居住地区におけるジェンダーに基づく暴力被害防止事業		4,231,168	13,115,691	17,346,859	23,072	
		バングラデシュのミンマータラ避難民居住地区における新型コロナウイルス感染予防のための水・衛生支援事業		1,759,619	11,490,733	13,250,352	23,072	
		ハザリバード子どもの保護と教育支援事業		8,220,720		8,220,720	300	
西アジア	タンザニア	ミャンマー-難民の子どものおおよび妊娠中・授乳中の母親に対する栄養支援事業		157,686	2,318,085	2,475,771	18,659	
		ミャンマー-難民の子どものおおよび妊娠中・授乳中の母親に対する栄養支援事業(上記継続事業)		1,144,488	4,063,857	5,208,345	20,377	
		ミャンマー-難民に対する食糧支援事業		1,160,572	6,663,681	7,824,253	98,260	
		ミャンマー-難民に対する食糧支援事業(上記継続事業)		1,712,895	6,322,899	8,035,794	137,785	
		ミャンマー-避難民ホストコミュニティの脆弱な世帯に対する現金給付事業		3,696,696	33,966,026	37,662,722	16,887	
		サイダベト地域プログラム	39,947,235			39,947,235	84,000	
		キラウ地域プログラム	39,947,234			39,947,234	55,091	
		ブドクコック地域プログラム	42,049,720			42,049,720	35,344	
		カンドゥール地域プログラム	15,768,645			15,768,645	98,122	
		デオラル地域プログラム	10,512,430			10,512,430	76,116	
東アフリカ	インドネシア	地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム支援事業(インド)		19,175,808	189,200	19,365,008	189,200	
		サクロンに負けない家づくり支援		2,417,859		2,417,859	20	
		トウナ地域プログラム	20,661,446			20,661,446	13,425	
		テルナタ郡子どもフォーラムの図書室兼集会所建設支援事業		2,218,859		2,218,859	125	
		ハルマヘラ県幼稚園 衛生設備 整備・改善 支援事業		2,948,526		2,948,526	413	
		西ドティ地域プログラム	39,947,234			39,947,234	40,466	
		バジャン地域プログラム	12,614,916			12,614,916	15,100	
		ドイ郡学校・コミュニティ防災事業(3年次)		8,319,656	2,891,865	11,211,521	25,255	
		地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム支援事業(ネパール)		12,944,721		12,944,721	31,163	
		フィカル村灌漑設備整備支援事業		3,317,723		3,317,723	1,000	
南アフリカ	フィリピン	チャンシ村サラスワティ小学校建設支援事業		3,689,863		3,689,863	154	
		レイテ地域プログラム	31,537,291			31,537,291	264,672	
		サマル地域プログラム	39,106,240			39,106,240	46,080	
		オルモカナイ小学校教育建設支援事業		3,685,658		3,685,658	97	
		リディマリヤグ地域プログラム	42,049,720			42,049,720	19,222	
		ゴングール・スリア地域プログラム	73,587,011			73,587,011	115,000	
		ダラ地域プログラム	71,169,151			71,169,151	100,000	
		アムハラ州フェレガ・セウォット病院の安全・衛生環境改善事業1		4,874,599	29,064,901	33,939,500	1,205	
		アムハラ州におけるフッ素除去装置の建設プロジェクト		3,153,729		3,153,729	238,373	
		ベクソワ・アダン小学校教育建設支援事業		3,685,658		3,685,658	360	
東アフリカ	ケニア	イラマダク地域プログラム	43,574,022			43,574,022	15,000	
		キアムボコ地域プログラム	40,420,294			40,420,294	21,712	
		Mother to Motherプロジェクト(シノノギ製品で日本の母を元気にしながら、ケニアの母も健康に!)によるケニア共和国における母子保健支援事業(5年次)		16,970,573		16,970,573	14,612	
		パンバ Mother to Mother プロジェクト(1年次)		49,436,174		49,436,174	49,310	
		エンクト地区電化による生活改善支援事業		371,184	7,796,000	8,167,184	3,758	
		エランガタ・エンテリット高校 寄宿舎建設支援事業		12,335,811		12,335,811	82	
		エランガタ・エンテリット高校 校舎建設支援事業		8,223,769		8,223,769	165	
		キラムシ地域プログラム	74,684,088			74,684,088	30,955	
		グワイザ地域プログラム	59,920,853			59,920,853	29,117	
		難民キャンプにおける水衛生及び教育支援事業		6,719,124	20,839,599	27,558,723	75,507	
南アフリカ	ルワンダ	ニヤキリ地区給水施設整備支援事業		8,524,635		8,524,635	12,433	
		ソマリア・サウスセントラルにおける栄養支援事業		367,935	2,923,064	3,290,999	19,279	
		ソマリア・サウスセントラルにおける栄養・食料支援事業		683,308	525,973	1,209,281	14,120	
		ソマリア・ソマリランドにおける栄養支援事業			3,639,150	3,639,150	16,152	
		ソマリア・ソマリランドにおける栄養支援事業(2019)		2,301,802	2,900,218	5,202,020	40,019	
		ソマリア・ソマリランドにおける栄養支援事業(2020)		1,268,114	5,462,820	6,730,934	42,232	
		ソマリア・ソマリランドにおけるセーフティネット事業		893,557	4,896,264	5,789,821	11,232	
		ソマリア・ソマリランドにおけるセーフティネット事業		893,557		893,557	11,232	
		ソマリア・ソマリランドにおける栄養支援事業		893,557	615,610	1,509,167	147,768	
		ソマリア・ソマリランドにおける栄養支援事業		630,746	3,523,907	4,154,653	12,864	

注記1 「物」と記載のある支援額は、物資支援を円貨換算したものです。

注記2 助成・委託団体名は下記の通りです。

- A: 外務省 日本NGO連携無償資金協力
- B: 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム【JPF】
- C: 国連世界食糧計画【WFP】
- D: 国連児童基金【UNICEF】
- E: 国連難民高等弁務官事務所【UNHCR】
- F: 国連開発計画【UNDP】
- G: 国連人道問題調整事務所【UNOCHA】
- H: 教育を待たない(Education Cannot Wait)基金【ECW】
- I: 世界銀行【World Bank】
- J: 欧州委員会人道援助・市民保護総局【ECHO】
- K: パナソニック株式会社

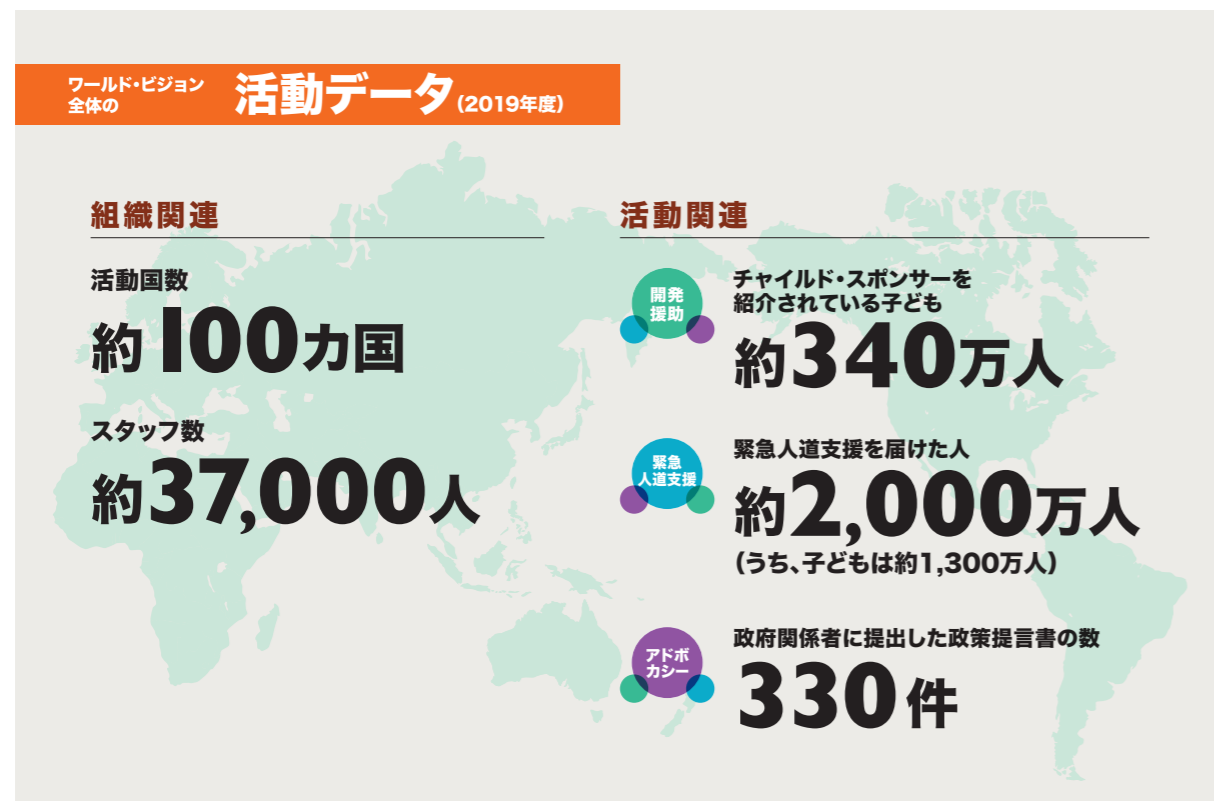
国名	プロジェクト名	チャイルド・スポンサーシップによる支援額	その他募金による支援額	助成金・委託金による支援額	合計	受益者数(人)	支援チャイルド数(人)
海外支援	セントラル・アッパーナイル-緊急期の教育支援事業		10,418,604	110,839,118	121,257,722	2,603	6,508
	アッパーナイルにおける緊急期の教育支援事業		4,543,661	21,524,688	26,068,349	658	3,685
	タンブラ郡の教員を対象とした4年目教員研修事業		6,307,458		6,307,458		20,456
	ワラップ州-2歳児未満の重度栄養不良予防事業			538,320	538,320		247,107
	ワラップ州食糧支援事業 2019		367,935	3,210,055	3,577,990		362,493
	緊急対応メカニズム構築支援事業			7,665,041	16,830,525		19,040,603
	マラカル郡における緊急食糧支援事業		123,311	2,210,078	2,333,389		113,497
	メルトル郡-レンク郡における緊急食糧支援事業		384,334	911,351	1,295,685		65,587
	中央エクトリア州における緊急食糧支援事業		367,935	925,654	1,293,589		68,160
	北バハル・エル・ガザ州における緊急食糧支援事業		346,700	1,257,081	1,603,781		249,024
食糧配布・現金給付のための情報管理システム(SCOPE)登録事業			25,985,793	25,985,793		550,000	
アッパーナイル地方における緊急食糧支援事業		698,866	597,405	1,296,271		131,285	
アッパーナイル地方における栄養支援事業		763,308	5,025,305	5,788,613		2,495	
ゴグリ地方における小学校を通じた食糧支援事業		683,308	161,607	844,915		44,153	
ワラップ州における2歳以下の子どもを対象とした栄養不良予防事業		546,646	2,996,737	3,543,383		63,655	
南スーダン-緊急期の教育支援事業(第3期)			70,252,741	70,252,741		44,397	
アッパーナイルのレンク・メルトル・マバニにおける保健サービス支援事業		7,246,323	53,751,860	60,998,183		347,044	
南スーダン-教育分野におけるレジリエンス強化事業		2,820,821	18,942,582	21,763,403		5,852	
アッパーナイルのマラカル郡における教育および保護統合支援事業		4,353,723	22,497,300	26,851,023		8,956	
南ダフル州国内避難民キャンプとその周辺における緊急事業		368,566	1,802,036	2,170,602		286,398	
南スーダン-緊急期の教育支援事業(第3期)			14,836,356	14,836,356		237,385	
南スーダン-緊急期の教育支援事業(第3期)		529,301	2,615,402	3,144,703		404,731	
南スーダン-緊急期の教育支援事業(第3期)			36,127,869	36,127,869		39,158,874	
南スーダン-緊急期の教育支援事業(第3期)		683,308	352,126	1,035,434		1,900	
タンザニア	ムゲラ地域プログラム	50,459,664			50,459,664	38,809	2,150
	ゴロワ地域プログラム	55,453,068			55,453,068	37,446	2,350
	ムキンガ地域プログラム	69,455,625			69,455,625	106,837	8,924
	ムキンガ郡における水の安全保障プロジェクト1		11,694,419	65,974,553	77,668,972	8,924	1,600
	キルヤンガ地域プログラム	42,043,413			42,043,413	28,078	
	ロバング郡-カレンガ地域プログラム	10,512,430			10,512,430		
	ウワンダ北部における難民居住地区での教育・子どもの保護事業		7,019,085	24,433,800	31,452,885	20,048	545
	オムゴ、ビティビ、アジュマニ-難民居住地区における難民とホストコミュニティへの生計向上支援事業		3,153,729	33,183,275	36,337,004	19,979	
	アジュマニ、アムル、コンベ県における子どもの保護事業		14,524,184	34,316,492	48,840,676		
	ビティビおよびロシ難民居住地区における食糧支援事業		1,831,265	2,051,056	3,882,321		
	キデンバ小学校建設支援事業		6,656,786		6,656,786	441	
	トヨタ地域プログラム	52,562,150			52,562,150	26,236	1,900
	カンボボ地域プログラム	54,655,385			54,655,385	22,446	2,000
	北キヴ州における水衛生改善プロジェクト		18,501,877		18,501,877	10,000	
	ルチュルにおける脆弱国向けパイロット事業		1,030,534		1,030,534	5,200	2,200
	クエ地域プログラム	58,962,117			58,962,117	18,926	2,500
	エスワチニ(スワジランド)	68,330,795			68,330,795	15,000	1,700
	ググ地域プログラム	46,202,130			46,202,130	21,000	
西アフリカ	ガーナ	農村部における乳幼児と妊産婦の食習慣改善事業		578,184	578,184		25,740
中東	エクアドル	コルタ地域プログラム	43,899,908			43,899,908	34,420
		フンガラ地域プログラム	40,998,372			40,998,372	13,761
		サンガイ教育ユニット学校整備支援事業		3,685,658		3,685,658	100
		ティエラ・ヌエバ地域プログラム	35,321,764			35,321,764	57,412
		サンアグスティン地域プログラム	42,049,720			42,049,720	58,073
		サン・					

ワールド・ビジョンについて

ワールド・ビジョン(WV)は、約100カ国で活動する世界最大の国際NGOです

ワールド・ビジョンの始まり

WVの活動は、アメリカ生まれのキリスト教宣教師ボブ・ピアスによって始められました。第二次世界大戦後、混乱をきわめた中国に渡ったボブ・ピアスは、「すべての人々に‘何か’はできなくとも、誰かに‘何か’はきっとできる」と考えるようになりました。中国で出会った一人の少女の支援を始めた彼は、より多くの支援を届けるため、1950年9月、アメリカのオレゴン州で「ワールド・ビジョン」を設立。朝鮮戦争によって両親を亡くした子どもたち、夫を亡くした女性たち、ハンセン病や結核患者に救いの手をさしのべることから始まり、現在は世界の子どものために、「開発援助」「緊急人道支援」「アドボカシー」の3つを柱に、約100カ国で活動しています。

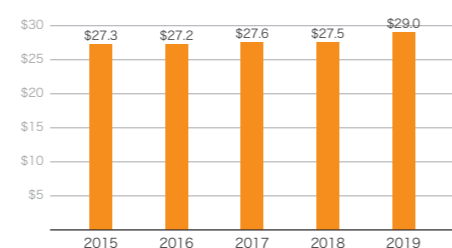


組織と運営

ワールド・ビジョンでは、各国が独自に総会・理事会を持ち、その国のワールド・ビジョンの運営に関する責任を負っています。通常は、総会・理事会のもとに事務局が置かれ、実際の運営を行います。最終的な責任はその国の総会・理事会が持っています。

WV全体に関わる方針や事業計画、予算等については、各地域から選出された理事で構成される国際理事会で決定されます。このほか国際理事会では、新たに活動を始める国や活動を終了する国の承認も行います。国際理事会のもと、WVパートナーシップ事務局が、各国・各地域間の調整業務や技術的サポートを行っています。

WV全体の収入推移(億米ドル)



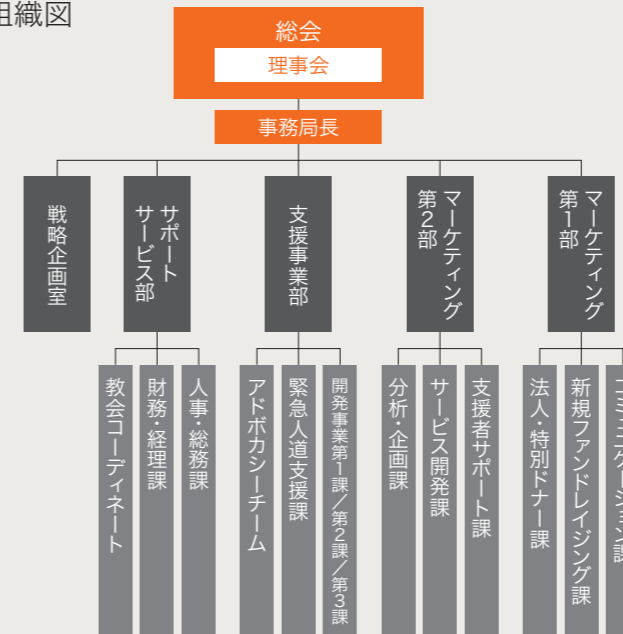
ワールド・ビジョン・ジャパンについて

WVは1960年代、日本でも両親を亡くした子どもたちが生活する施設等を通じて支援活動を行いました。その後、日本の経済成長と内外の海外支援に対する気運の高まりとともに、1987年10月に「ワールド・ビジョン・ジャパン」が設立され、独自の理事会を持つ組織として活動を開始しました。

1999年に特定非営利活動法人の認証を得て、法人格を持つ民間援助機関としてその歩みを進めています。2002年5月、国税庁より「認定NPO法人」に認定され、これ以降、当団体への寄付金は税制上の優遇措置を受けられるようになりました。また、その後のNPO法改正を受け、2014年8月からは、東京都より改めて認定されています。



組織図



役員・親善大使(全員無給です)

- 理事長 小西 孝蔵(元農林中央金庫監事)
- 副理事長 飯島 延浩(山崎製パン株式会社代表取締役社長)
- 常務理事 片山 信彦(前特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長)
- 理事 峯野 龍弘(ウェスレアン・ホーリネス教団淀橋教会牧師)
- 理事 湊 晶子(広島女学院大学院長・学長)
- 理事 三木 晴雄(玉の肌石炭株式会社代表取締役会長)
- 理事 安西 愈(弁護士)
- 理事 樋口 紀子(梅光学院学院長・学長)
- 理事 安藤 理恵子(玉川聖学院 中等部・高等部学院長)
- 理事 木内 真理子(特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長)
- 理事 富岡 徹郎(国際基督教大学 常務理事)
- 理事 チャールズ・バデノック
(ワールド・ビジョン・インターナショナル パートナーシップ・リーダー)
- 監事 村上 宣道(一般財団法人太平洋放送協会名誉会長)
- 監事 中島 秀一(日本イエス・キリスト教団荻窪栄光教会牧師)

- 親善大使 ジュディ・オング(歌手・女優・木版画家)
- 親善大使 酒井 美紀(女優)

2021年1月1日現在

SDGsへの取り組み

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)は、持続可能で多様性と包括性のある社会を実現するため、2015年に国連サミットで採択されました。貧困や飢餓、教育、平和等の課題を解決するための17の目標が掲げられており、WVは、子どもたちの健やかな成長を目指す活動を通して、その目標達成に向けて取り組んでいます。

